

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成30年2月発行 No.5 2号



シチヘンゲ

「自然環境教育推進のための連絡会」を開催

12月18日(月曜日)、西表島の船浦地域活性化施設(ときめきホール)において、平成29年度の「自然環境教育推進のための連絡会」を、各関係行政機関、各種団体等及び西表島内の小・中学校の先生方の出席により開催しました。

当該連絡会では、平成29年度の西表島における自然環境教育の活動や各行政機関・各団体等が実施した支援内容を報告した後、意見交換等では学校教育関係者から、学校教育との調整(日程)が難しいことなどの話がありました。

また、当連絡会で作成された「自然環境教育カリキュラム」の活用については、相談窓口や出前講座等の実施など様々なご意見・ご要望が出されるなど、活発な意見交換の場となりました。

これらのご意見・ご要望等を踏まえ、支援機関等と調整を図りながら、「自然環境教育カリキュラム」の改訂や支援の実施に向けた検討を進めるとともに、西表島における自然環境教育の一層の推進に取り組んでいきたいと思っております。



自然環境推進のための連絡会

「適正利用とエコツーリズム推進体制構築に向けた検討会及び現地視察」に参加

世界自然遺産に登録に向けて「西表島における適正利用とエコツーリズム推進体制構築」に対する検討会及び現地視察が2月13日(月)に西表島で開催されました。

検討会メンバーによる大見謝ロードパーク、浦内川等の現状等について現地視察が行われ、中野わいわいホールにおいて、西表島における適正利用とエコツーリズム推進体制構築に向けた検討会が行われました。

検討会では、①「目的・方針の確認及び今後の検討方針」、②「モニタリング方法」、③「ルール遵守のための仕組み」、④「エコツーリズムと地域社会との関係」、⑤「組織・体制構築及び有効な情報発信」について議論が行われました。

今後も、本検討会においては、適正ルール及び推進体制等の構築に向け検討が進められる予定ですが、関係機関や地域と連携を図りながら、西表島における各種の検討等に取り組んでいきます。

現地視察⑤
検討会の様子

海岸林自然再生試験地の生育状況調査を実施

平成30年2月6日～7日の両日、南風見国有林172に林小班外の海岸林自然再生試験地において、生育状況調査を実施しました。

この海岸林は、外来種である「ギンネム」が、台風被害等により裸地化した海岸等にいち早く侵入・繁茂し優占種となり在来種による森林再生を阻害しています。

「ギンネム」は、繁茂はするものの、台風等の強風には弱く、幹折れや枝葉の四散で大きな林冠を形成することができないので、防潮・防風機能の持続的な発揮が期待できません。



試験地のフクギ・テリハボク



生育状況調査の様子

このことから、海岸林の防風等の機能を高めた豊かな森林に復活させることを目的に海岸林自然再生試験地（調査区1～4）を設定しています。

この調査では、植栽木の生育を確認するための樹高測定とタグ（調査木個体表示）の取り付け作業を行いました。

試験地における生育状況は、在来種のおオバギ・オオハマボウ、ヤンバルアカメガシワ等、一定の成長を示しているものの横への生長が著しく、将来に森林形成が期待されるテリハボク、フクギ、イヌマキに一部被さりやツル類の巻き付きが見受けられました。

石西礁湖自然再生協議会が開催

平成30年2月18日に沖縄県八重山合同庁舎大会議室において、「第22回石西礁湖自然再生協議会」が開催されました。

同協議会は自然再生推進法に基づき、石西礁湖（石西礁湖に影響を及ぼす陸域と海域を含む）の自然再生を推進するため、必要な事項について協議することを目的としています。

この協議会を前に、1月24日・25日両日において、分科会が開催され、当センターから自然再生指導官が参加しました。この分科会では、大きく3つの分科会に分け、過去10年間の評価・検証を行いました。

分科会1の「攪乱要因の除去」の展開すべき取り組みの中では、当センターが取り組んでいる漂着ゴミ対策や赤土等流出防止対策等について、分科会2の「良好な環境創成」「調査研究・モニタリング」の中では、西表島における外来種対策やギンネム(外来種)対策と海岸林再生についての取り組みと成果について説明し、各取り組み等について意見交換を行いました。(分科会3「意識の向上・広報啓発」等)

石西礁湖自然再生協議会では、2016年のサンゴの大規模白化現象を受け、過去10年取り組んできたことの評価・検証した分科会での報告を行い、健全なサンゴの生態系を保全するための進め方等、健全な海を取り戻すことを目指すための方策として陸域対策の重要性が確認されました。



分科会の様子



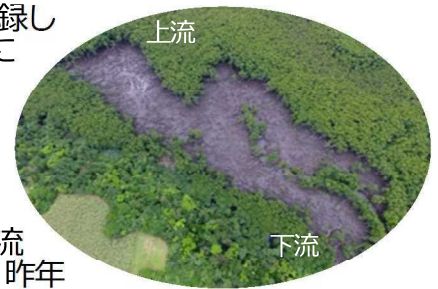
石西礁湖自然再生協議会の様子

仲間川流域のマングローブ林倒伏被害調査を実施

八重山地方を襲った観測史上1、2位の最大風速65～70mを記録した平成18年9月の台風13号及び平成19年9月の台風12号により、仲間川流域において発生したマングローブ林倒伏被害地の調査を1月15日に行いました。

この調査は生じたギャップがどのように再生していくかを継続的に調査するもので、定点撮影や被害地の状況を観察しました。また、昨年からのドローンによる空撮を行うこととしました。

地樹の発生は、被害地上流域では多く見られるのに対して、中流域ではほとんど見られず、下流域では僅かに発生している状況で、昨年度の調査との大きな変化は見られませんでした。



稚樹の発生が見られる上流域



稚樹の発生があまり見られない中流域

平成29年度 沖縄外来種対策連絡会議に出席

平成30年2月22日に沖縄県科学技術大学院大学において「平成29年度沖縄外来種対策連絡会議」が開催されました。

この連絡会議は、沖縄地域における外来種に係る情報を国や地方公共団体の関係機関（日米陸海空軍、沖縄防衛局、沖縄森林管理署、当保全センター、沖縄県、農林水産省動物検疫所、植物防疫事務所）で在来種に関する情報を共有し、効果的・効率的な手法により防除等を促進させ、沖縄県における生物多様性の保全に寄与することを目的としています。

会議では、各機関から平成29年度の外來種駆除対策の実施状況と結果及び平成30年度の外來種実施計画について、情報を共有し意見交換を行いました。

その後、地方自治体の外来種対策担当者含め「侵略的外来種に関するセミナー」が行われ、侵略的外来種であるボタンウキグサ、ツユヒヨドリ、シロアゴガエル等について、発見後の対応や被害拡大を防ぐための対策、連携について説明がありました。

また、沖縄科学技術大学院大学の吉村博士による「沖縄でのヒアリ発見 来るべきその日への備えとは」と題し、ヒアリが及ぼす影響や対策について、またヒアリ見分け方について説明があり、ヒアリの同定実習がありました。



市町村含めたセミナーの様子



連絡会議の様子

西表島の樹木

サキシマフヨウ

アオイ科

分 布	長崎県五島列島 鹿児島県(甌列島、南西諸島) 沖縄県
葉 の 形	五角状円形、円形
葉 の 縁	鋸 歯
葉 の 先	鋭 形
葉の付方	互 生
葉の種類	単 葉
花・萼色	白色、淡い紅色

人里付近に生え、高さ2～4mの落葉または半落葉の低木または小高木です。

秋から冬にかけて、西表島の県道沿いに白色や淡い紅色の花が咲いているのをよく見かけます。野生種のハイビスカスの仲間です。



シチヘンゲ 「クマツヅラ科」 *Lantana camara*

(花言葉 厳格)

花は黄色またはオレンジ色で、時間が絶つとやがて赤色、ピンク色、白色などに色が変化することから“七変化”と呼ばれています。

花は葉腋から出る柄の先に集まって咲き鮮やかです。

熱帯アメリカ原産で、高さ2mくらいになる常緑の低木です。

現在では、野生化しているのが見受けられます。



林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusvu.kokuyurin.qo.jp/huresen/huresentop.htm>



